

2014年10月5日「メシヤの価値」

＜ 聖書箇所 ＞ 「ヨハネによる福音書 2章19節～22節」

イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。

＜ 説教抜粋 ＞ 「メシヤの価値」

今日の説教の題名は、「メシヤの価値」です。もしも、メシヤがいかなる存在なのかということテーマにしますと、とても壮大なテーマになりますが、今日は神殿という観点に絞って共に考えて行きたいと思います。イスラエル民族は、メシヤを探し求めてきました。とりわけイスラエル民族がメシヤを待望した理由の一つには、長く国がなかったという点をあげられるでしょう。

つまり、イスラエル民族は、他の主権によって囚われていた期間が多かったということです。そして、イスラエル民族は、神殿をはじめて建てたのは、サウル、ダビデ、ソロモンを王とする、イスラエル統一王国時代でありました。それでは、神殿がなぜ必要だったのでしょうか。イスラエル民族は、神殿に真の神様をむかえて行かなければなりません。神殿の主人は、他ならぬ神様であり、メシヤでした。「イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」」。

ここには、神殿を壊すという話が書かれています。イスラエル民族には、かつて、神殿を破壊された経験がありました。統一王国時代に建造されたいわゆる第一神殿は、後に、バビロニアによって破壊されることとなります。この時、イスラエル民族はバビロニアに捕囚されることとなります。そして、長い捕囚の期間の後、故郷に帰還したイスラエルの民は、再び神殿を建設してゆきます。帰還したイスラエル民族が真っ先におこなったことは、神殿の建設と戸籍の整理でした。

つまり、神殿ができると共に、神の国の民としての登録が象徴的に開始されたということです。この時に建造された神殿は第二神殿と呼ばれます。この第二神殿の建設には、聖書によれば四十六年かかったとあります。「そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるの

ですか」。イエス様は、もし神殿が破壊されたとしても、三日のうちに再建すると言いました。

しかし、その言葉を聞いた人たちは、それは到底難しいと判断しました。ここで、神殿という言葉が使われていますが、実際の神殿と、象徴的な意味での神殿という、二つの解釈が成立すると考えられます。聖書の多くの箇所には、たくさんの比喻や象徴が書かれています。こうした比喻や象徴をどのように解釈するかによって聖書の言葉が示す意味が大きく異なってしまいます。このことは、聖書解釈に、一つの明確な軸がなければならないことを意味します。

さて、イエス様が三日の後に建て直す神殿は、果たして何を指していたのでしょうか。実は、弟子たちもこの意味がよくわからなかったようです。「イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。」。このように書いています。

つまり、イエス様の死と復活を通して、弟子たちは、この聖句の意味を理解することができました。イエス様が建て直すと言った神殿は、イエス様の復活を示していました。つまり、いつも共にいた弟子たちでさえ、イエス様の言葉を正しく解釈することには困難が伴いました。十字架にかかることが、イエス様の生涯の目的だったのでしょうか。実はそうではありません。イエス様は、決して殺されてはなりません。むしろ、地上で家庭を完成し、神様の神殿としての役割を担ってゆかなければなりません。

ここで、神殿について、もう一度考えてみたいと思います。神殿は、本来は、国と一体不可分なものであると言えるでしょう。もしも、国家的な基盤のうえにイエス様がメシヤとして迎えられていたとするならば、そこには神の国ができていたでしょう。私たちは、メシヤという存在をどのように迎えて行くべきなのでしょう。

メシヤは、私たちの心からはじまり、家庭、民族、国家、世界、宇宙に迎えて行かなければなりません。私たちは、神の国にふさわしい民になることができているのでしょうか。私たちは神の国を求めると同時に、私たち自身が神の国にふさわしい人になる努力をしなければなりません。